

**～がんばろう日本　がんばろう東北～**

**仙台七夕まつりのロビー装飾**

**宴会場「グランBeerホール」の開催**

ホテルグランヴィア広島(広島市南区松原町1-5、代表取締役社長 湊 和則)は、平成23年6月25日(土)から8月12日(金)の期間、ホテル1階ロビーに仙台の七夕装飾を設置いたします。

仙台の七夕の特長である吹流しは、仙台の制作会社より購入し、装飾はホテル内のテナント日比谷花壇が担当いたします。

また、ロビーには2011年開催の仙台七夕祭りのポスター、東北地方の観光ポスターを掲示し、東北地方への観光PRも兼ねたものといたします。

また、ホテルフロント、レストランには義援金募金箱も設置しております。集まった義援金は日本赤十字社に寄託いたします。

なお、7月13日(水)より、ホテル宴会場にて開催する「グランBeerホール」の会場内にも、仙台の七夕装飾を設置いたします。

**【ロビー七夕装飾概要】**

ホテル1階ロビー中央に仙台七夕で御馴染みの吹流しを取り付けた装飾を設置、併せてお客様の願いを込めた短冊を飾り付けるための竹笹も設置いたします。

この短冊は、展示終了後に日比谷花壇にて回収し仙台大崎八幡宮に奉納いたします。

開催期間：平成23年6月25日(土)～8月12日(金) 予定

会場：ホテルグランヴィア広島 1階ロビー

入場料：無料

仙台七夕装飾の写真：仙台七夕まつり協賛会



**【グランBeer ホール開催概要】**

下記の開催日にホテル宴会場で、ビアホールを開催いたします。会場には仙台の七夕装飾と短冊飾りつけ用の竹笹を設置いたしますので、願い事を書いて吊るしていただけます。

また、売上金の一部を東日本大震災の義援金として、日本赤十字社へ寄託いたします。

会 場 : ホテル宴会場（開催日により会場は変更となります）

開催日 : 7月 13 (水)・15 (金)・20 (水)・21 (木)・28 (木)・29 (金)  
8月 3 (水)・4 (木)・5 (金)・10 (水)・11 (木)・12 (金) 12日間

開催時間 : いずれの日も 18:00~20:30 (受付 17:30~)

販売金額 : お一人さま 4,000円（消費税込み）

販売受付 : 6月 24 日 (金) より予約受付開始いたします。

飲 物 : 生ビール／焼酎／酎ハイ／ハイボール／梅酒／ソフトドリンクはフリードリンク  
日本酒試飲コーナーを設け、東北3県の日本酒も数量限定でご用意いたします。

料 理 : 夏を元気に乗り越えるための鉄板焼きコーナーや、生ビールにぴったりのお料理（和食・洋食・デザート）をご用意いたします。

予約・問い合わせ : ホテルグランヴィア広島 宴会予約係 082-262-1102  
受付時間 9:00~18:00

予約制となっておりますので前々日の12:00（正午）までにご予約下さい。  
また、最少開催人数は30名とさせていただきます、人数に満たない場合は中止する場合がございますので、ご了承下さいませ。

**ニュースリリースに関するお問い合わせ先**

**ホテルグランヴィア広島 企画課 担当：中野**

〒732-0822 広島市南区松原町1-5 (JR 広島駅新幹線口)

TEL : 082-262-1218 (直通)

FAX : 082-262-3349

e-mail : [k\\_nakano@hgh.co.jp](mailto:k_nakano@hgh.co.jp) URL : [www.hgh.co.jp](http://www.hgh.co.jp)

## 仙台の七夕について(Wikipedia より)

### 【概要】

仙台七夕まつりは例年 7 月 7 日の月遅れである8 月 7 日を中日として、8 月 6 日から8 日の 3 日間にわたって行われる。大規模な飾り付けがされるのは一番町や中央通りなどのアーケード街、仙台駅周辺などであるが、それ以外の商店街組織ごとの飾り付けや店舗や家庭など個別の飾り付けなど市内各地至るところに小から大まで合計 3000 本と言われる飾り付けがなされ<sup>[2]</sup>、街中が七夕一色になる。東北三大祭りの 1 つに数えられ、例年 200 万人以上の人人が訪れる。

仙台市周辺の自治体各地の商店街などでも同時に大小さまざまな七夕飾りがなされるため、市境を越えて広がりを持つ。また、国内各地の七夕まつりに影響を与えてきたこともあって首都圏などの企業や駅や空港の七夕飾りを作成する業者も存在しており、その豪華な飾り付けが各地に移出され続けている。

### 【歴史】

江戸時代初期、仙台藩祖の伊達政宗が婦女に対する文化向上の目的で七夕を奨励したため当地で盛んな年中行事の 1 つになったともされるが、詳細は不明のままである。年中行事としての七夕は江戸時代中期頃から全国各地で行われている。1783 年(天明 3 年)には、天明の大飢饉発生による荒廃した世俗の世直しを目的に藩内で盛大に行われた。1873 年(明治 6 年)の新暦採用を境にして年々七夕の風習は廃れ始め、第一次世界大戦後の不景気以降はそれに拍車がかかった。

1927 年(昭和 2 年)、この状況を憂えた商店街の有志らによって大規模に七夕飾りが飾られた。すると、大勢の見物客で商店街は賑わった。翌 1928 年(昭和 3 年)には旧暦開催を新暦日付の月遅れ(8 月 6 日・7 日・8 日)に開催することとし、東北産業博覧会と関連して「飾りつけコンクール」も行われ以降、華麗な飾りつけが発達するようになった。このようにして、「七夕」という庶民の風習は「七夕祭り」という昼間の商店街で行われるイベントへ転換した。しかし、第二次世界大戦の戦局の悪化とともに規模は縮小された。

戦後の 1946 年(昭和 21 年)、仙台空襲で焼け野原となった街に 52 本の竹飾りで仙台七夕は復活した。翌 1947 年(昭和 22 年)の昭和天皇巡幸の際、沿道に 5000 本の竹飾りを並べて大規模な飾りつけの「七夕祭り」が復活した。1949 年(昭和 24 年)には七夕協賛会が発足した。高度経済成長以降は、「東北三大祭り」の 1 つに数えられたことで日本各地から団体旅行客が集まる祭りへと変化した。1970 年(昭和 45 年)からは「動く七夕パレード」(現「星の宵まつり」と「仙台七夕花火祭」が始まり、夜のイベントが加わった。1983 年(昭和 58 年)からは「夕涼みコンサート」が始まり、無料の屋外音楽イベントの面も持ち合わせるようになった

## 仙台大崎八幡宮 (Wikipedia より)

### 【歴史】

創建年代は不明であるが、社伝では坂上田村麻呂が宇佐神宮を鎮守府(胆沢城)に勧請し鎮守府八幡宮と称したことに始まり、室町時代に入り奥州管領であった大崎氏が本拠地(現宮城県大崎市)に遷したため、大崎八幡宮と呼ばれるようになったという。

大崎氏改易後の慶長 9 年(1604 年)、伊達政宗が仙台城から見て北西かつ仙台城下町北西端の現在地に造営を始めた。当地は別当寺の龍宝寺の西隣にあり、城下町の北に連なる北山丘陵(七北田丘陵)と広瀬川とが接するために城下町がある河岸段丘の西端部にあたり、広瀬川上流の愛子盆地や山形方面に向かう作並街道(現国道 48 号)が超えなくてはいけない最初の難所の鶴沢<sup>[1]</sup>の城下町側に接する地である<sup>[2][3]</sup>。慶長 12 年(1607 年)、従来伊達氏が祀ってきた成島八幡宮と合祀して遷座した(当宮の西隣の鶴沢には堤も造られた<sup>[2][3]</sup>)。以前に大崎氏の家臣が行なっていた流鏑馬の神事は、その旧臣 3 人が祭りの日に仙台までやって来て勤めた。仙台藩は寛永 15 年(1638 年)から彼らに旅費を支給した。後に社職の者も加わって 4 人が勤めた<sup>[4]</sup>。

明治以降、大崎八幡神社と称していたが、平成 9 年(1997 年)に大崎八幡宮の名称に復した。